

# キャリア支援 & 就職ジャーナル

高等学校版

発行

キャリア教育支援協議会

大学新聞社

秋分号 2019 VOL.5

[発行] 9月27日

★「高企連携」News & Topics	
ニュース&ピック	最新ニュースアラカルト
北海道	チームワーク etc.
東北	現場主義 etc.
関東・首都圏	職種選び etc.
東海・北陸	SDGs研究 etc.
近畿・中四国	外部講師 etc.
九州・沖縄	特許取得 etc.
グローバル	国際学術交流

キャリア&就職支援ジャーナル【高等学校版】は高校の先生方と民間企業・行政機関、および大学・短期大学・専門学校等を結びつけるフリーペーパーです。Career & Job-hunting activities Times for High School teachers 通巻第6号

## 多様化が進む現代日本だからこそその学び方を追究

COVER  
INTERVIEW

高濱 正伸氏

株式会社こうゆう  
花まる学習会代表



株式会社こうゆう（本社・さいたま市）は、「社会が自立できない大人を量産している」という問題意識から、「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を主軸に教育を行う「花まる学習会」を運営している。ここでは、高濱正伸代表に同会が目指す教育像と現代を生きる若者に求められる能力や進路指導に携わる先生方へのメッセージを送っていただいた。

### 本質を見極める力が重要 環境が学ぶ意欲に影響大

花まる学習会は、「自立」と「魅力」を体現できる人材の育成を目指し、さまざまな問題意識の中から本質を見極めるために必要な能力を幼少期から育成しています。例えば、毎日同じ風景を見ていたとしても、その中から何かをつかむ人とそうではない人との差がついてしまう。本会では、本質を見極める能力を引き伸ばしていくきっかけとして「なぞべー」や「野外体験」を実施しています。

子どもたちが気持ちよく学べる環境を整えるために、保護者の意識改革にも取り組んでいます。元来、日本の子育ては群れで行っていましたが、現代では、近所との交流も少なく、家族内でのみ対応しているため負担が大きくなっています。まずはお互いを思いや

り協力することで、余裕を持って子育てできる環境を整える必要があります。

### 意識改革のきっかけにつながる 「成功体験」や「承認欲求」

本質を見抜く力を磨くためには、できるだけ早期から意識を変えていくことが重要です。人間は「私にはできない」というようなネガティブな感情に縛りつけられてしまう傾向があります。その状態だと、早々にあきらめてしまったり、挑戦すらしなかったりという状況に陥る。そこから抜け出すきっかけとなり得るのが「成功体験」や誰かに認められたいという「承認欲求」です。それは恋愛や部活動など、どんなきっかけでもいいと思います。特に部活動は仲間と同じ目標に向けて切磋琢磨できますし、何かに夢中になるきっかけにもなります。先輩や師匠などとの良い出会い

が、意識改革のカギとなるでしょう。

日本では、子どもの成績が良いと、保護者が医学部や法学部に行かせたがる傾向が強い気がします。これがアメリカの場合、「起業」という選択肢につながることが少なくありません。日本は安定を重視しがちですが、「既定の枠組みにはまれば未来も保証される」という考え方では、これからの時代では通用しないかもしれません。

実際、一般的な企業では、学歴や卒業した学校名はほとんど関係なく、良い商品やサービスを作り、それを集めて活躍している人はたくさんいます。

起業を目指す若者には挑戦できるところまで挑戦してみて欲しい。たとえ失敗してしまったとしても、自分がやりたいと思えることに、貪欲に挑戦して欲しいと考えています。

一方、残念に感じているのは、起業を金儲けの手段としてしか考えていない人が少なくないということです。中には、せっかく魅力的な商品やサービスを作っていて、ある程度のレベルまでやったら、他社に売却してしまうというような例もあります。

私は、哲学や美意識からしか次の仕事は生まれないと考えています。自分自身の思いが強ければ、簡単に投げ出すようなことはしないはず。大切なのは、本人が「やりたいこと」だという関心と本人の実力で、これを追跡するのが人間の幸せにつながるのだと思います。また、人間は会社や家など、集合体から成り立っています。その中で自分がどの役割を担うかということが重要です。

とはいっても、リーダーを目指す人材がもっと増えて欲しいという思いもあります。



す。しかし、「起業願望」の弊害となり得るのが、保護者の存在です。保護者は子どもの幸せを願って、「優良企業に就職して安定した生活を送りたい」という考え方を持つ方が多く、子どもが「起業したい」という考えを示した時に阻止してしまうケースがある。企業は30年周期とも言われており、20年前にあった企業がいまはもう存在しないということも珍しくありません。ましてや、現代は技術の進化がすさまじい革命期でもあります。そんな時代では、絶対的な安定というのではなくと言っても過言ではないでしょう。だからこそ、これから時代は新しいことに積極的に取り組める人材が求められています。

生徒をより良い未来に導いていくために、先生方には、エッジの効いたニュースにふれて欲しい。外の世界に先生自身がふれることで、情報強者になってください。先生自身が向上意識を持つことで、子どもたちにも影響が出てきます。学び続ける姿勢や迫力こそが、最も子どもたちを動かす原動力になります。

そして、先生自身の哲学を持ってください。教育 자체、これが正解というものがあるわけではありません。まずは、先生自身がこれだけは譲らないという信念を持って、教育に臨んではいただければと思います。

やる気や意欲を引き出すのに欠かせないのが、愛と懇と没頭です。自分のことを心配してくれていると感じることができる存在が近くにいることで、子どもたちも行動に移すことができます。生徒一人ひとりの強みに焦点を当てながら、見届けてあげることも大切ではないでしょうか。